

編集委員会

病薬ニュースへの想いと活動内容

委員長 みらい病院 中島 久徳

石川病薬ニュース第1号は昭和38年に発刊され、2023年6月には60周年を迎えようとしています。現在、年3回の発行を担当しているのが編集委員会です。石川病薬ニュースに込められた想いと、活動のほんの一端をご紹介します。

石川県は加賀から能登まで南北に長く伸びた地形であり、幅広い病院・会員同士のつながりや「縁」というものが構築しづらい環境ではないかと思います。また地域によっては持続可能な医療を継続するための人材確保においても苦慮されています。今でこそWebシステムを利用した遠隔会議・研修・会合も当たり前となりましたが、ある意味、人と人のつながりが大変難しい時代になったのではないかと感じています。医療環境は常に変化し、発刊当時の病棟薬剤師の活躍が珍しかった時代から、六年生薬学教育を受けた薬剤師が臨床現場に増えてきた現代、時代を超えても役割は不変であると思います。病院機能・病床機能に応じた地域での薬剤師の役割を再確認し、医療現場で活躍できる力、柔軟に変化に対応する力、使命感を持って働く力が大切だと感じています。そのために、病薬ニュースが各施設状況や委員会活動を通じて薬剤業務の情報を広く共有し、あたたかくお互いを理解し、会員の皆様の研鑽や日々の安全・安心の業務に活かせるようになることを願っています。また、これから薬学部を卒業していく未来の私たちの仲間のためにも病薬ニュースが受け継がれていくことを願っています。日常業務に追われ定期発行の困難さも感じますが、先生方のご協力、ご鞭撻を得て発行することができています。少しでも会員の皆さま方のお役に立てるように努力していきますので、ぜひお手元に届いた際はご一読ください。

次に、編集委員メンバーからの活動メッセージもあわせて紹介させていただきます。まずは、例年、新任薬剤師研修会の取材を担当してくださるのが、JCHO金沢病院の甲本先生です。

～甲本先生よりひと言～

『皆様は病薬ニュースの新人紹介のページをご覧になったことはありますか？病薬ニュースではその年度に配属された新任薬剤師の顔写真と下記の質問に対する回答を掲載しています。いままでは新人研修の最初に質問項目と回答用紙を配布し、研修の最後に回収、それを後日編集して掲載するという流れでした。この手順に対し、ここ数年の取り組みとして、質問項目の用紙にQRコードを添付し、スマートフォンで読み込み回答してもらう形式をとるようにしたところ編集作業の効率化と誤字脱字の修正作業を軽減できるようになりました。』

編集委員会ではこれからも各病院で活躍される新任薬剤師の方々を紹介していきたいと考えております。「こんな質問もして欲しい」等のご意見があれば教えていただければ幸いです。』

次に、病薬ニュースは製薬メーカー等の賛助会員様からの広告も欠かせません。この広告依頼

も編集委員会の重要な役割の一つなのですが、これを担当してくださっているのが金沢大学附属病院の三坂先生です。

～三坂先生よりひと言～

『広告掲載に関しては、毎号複数のメーカーとやりとりを行っています。対象は石川県病薬の賛助会員メーカーとしていますが、予算の都合や会計締めタイミング等で、掲載メーカーを調整しなければならないことがあります。また、申込みまでの手続き上の不備や、連絡の漏れ等で広告原稿が発行直前まで届かなかったケースがあったことから、詳細な説明を行い、こまめに連絡をとることを心がけています。これまで、メーカー担当者と対面でやり取りを行うケースが多かったのですが、昨今の状況を鑑み、メール等でのやり取りに切り替えています。対面では、各担当者の自社製品への「熱さ」も感じる事ができたものですが、今後しばらくは、その思いを広告紙面にのせていただければと考えています。』

最後になりましたが、各委員会の個性溢れる原稿をお寄せ頂きまして、この場をお借りして御礼申し上げます。委員会メンバーと共に力を尽くして参ります。引き続きのご支援ご協力の程宜しくお願いいたします。